経専学園介護職員初任者研修 情報公開

研修機関情報	法人情報	●学校法人 経専学園
		〒005−0004
		札幌市南区澄川 4 条 4 丁目
		Tel:011-824-1000
		●理事長 山本 清
	研修機関情報	●理念
		経専学園は様々な個性を尊重し、経専学園ならではの質の高
		い実践的職業教育を通じて、社会に対する思いを持った、現
		場力の高い人を輩出することで地域・社会の発展に貢献しま
		す。
	研修実施場所	●経専北海道保育専門学校
		〒005−0004
		札幌市南区澄川 4 条 4 丁目
		Tel:011-812-9626
		●経専医療事務薬業専門学校
		〒005−0003
		札幌市南区澄川3条6丁目
		Tel:011-837- 0100
研修事業情報	研修の概要	● 対象:本学園在校生
		● 研修のスケジュール
		(研修期間8か月、23日間程度、90.5時間:10月開講)
		(研修期間8か月、15日間程度、90.5時間:3月開講)
		● 定員(集合研修、実習ともに20名)、指導者数12名
		● 研修受講までの流れ:募集要項
		● 費用:34,950円(税込)経専北海道保育専門学校
		● 費用:14,950円(税込)経専医療事務薬業専門学校
		● 特徴:添付2号様式
	課程責任者	● 課程編成責任者
		経専北海道保育専門学校
		理事・部長 鈴木 朗
	研修カリキュラム	● 科目別シラバス:添付2号様式 別紙1
		● 科目別時間数:添付2号様式 別紙1
		● 科目別担当教官名:様式 4 号様式
		● 科目別特徴:添付2号様式 別紙1
		演習の場合は、実技内容・備品、指導体制

	(通信)	● 科目別通信・事前・事後学習とする内容及び時間
		添付2号様式 別紙1
	修了評価	● 通信課程の教材・指導体制・指導方法・課題
		添付 8 号様式
		● 修了評価の方法、評価者、再履修等の基準
		添付8号様式、フローチャート
	実習施設	なし
	(実習を行う場合)	
講師情報		● 氏名、担当科目(項目)、資格名、専兼別
		添付3号様式
実績情報		2021 年度
		経専北海道保育専門学校 受講者 12 名 修了者 12 名
		経専医療事務薬業専門学校 受講者6名 修了者6名
連絡先等		● 申し込み・資料請求先
		学校法人 経専学園 経専北海道保育専門学校
		● 法人及び事業所の苦情対応者
		鈴木 朗 役職:理事・部長
		連絡先:経専北海道保育専門学校
		TeL: 011-812-9626
		MAIL suzuki@keisen-g.ac.jp

経専学園介護職員初任者研修 (通信) 学則

(研修の目的)

第1条 本学園が運営する各専門学校の在学生に対し、介護サービスの中核となる介護職員の養成を図り、超高齢社会への対応の一助とすることを目的とする。また、卒業後の幅広い進路選択を視野に入れながら、優れた知識・技術と人間性を兼ね備えた人材育成をすることにより、福祉の増進に寄与することを目的とする。

(研修の名称)

第2条 研修事業の名称は、次のとおりとする。

経専学園介護職員初任者研修

(研修の要旨)

第3条 研修に関するおもな内容は、次のとおりとする。

事業所 の所在 地	研修 形態	修業年 限	研修期 間	定員(人)	受講料(円)	テキスト代 (円)	受講対象者
札幌市	'ጽ <i>I</i> =	о , С	0, 8	0.0	30,000円 (税込)	4, 950 円 (税込)	経専北海道 保育専門学校
	通信 8ヶ月	δΤΗ	8ヶ月	月 20	10,000円(税込)	4, 950 円 (税込)	経専医療事務 薬業専門学校

- (1) 受講料以外の費用として、テキスト代・交通費・昼食代等は、受講者負担とする。
- (2) 研修会場は、本学園が運営する次の学校とし、募集の際、募集要項に明示する。

札幌市南区澄川4条4丁目 経専北海道保育専門学校

札幌市南区澄川3条6丁目 経専医療事務薬業専門学校

(受講手続)

第4条 受講手続きは、次のとおりとする。

- (1) 受講申込書に示した締切日までに、指定の申込書の提出をもって受け付ける。ただし、締切日前であっても、定員に達した場合は、先着順で募集を締め切る場合がある。定員が13人に満たない場合は、研修を中止する場合がある。
- (2) 受講決定後、指定期日までに受講料を振り込みまたは窓口で直接支払う。 なお、研修開始までに入金確認できない場合は受講を断る場合がある。
- (3)研修開始前に本学園の都合により研修を中止した場合に限り、受講料を返還する。 研修開始後は、理由の如何を問わず、受講料は返還しない。

(カリキュラム)

第5条 研修を修了するために履修しなければならないカリキュラムは、別紙1のとおりとする。 (科目の免除)

第6条 科目の免除については、これを認めない。

(主要テキスト)

第7条 使用教材は「介護職員初任者研修テキスト」全2巻(中央法規出版株式会社)とする。 (修了認定)

第8条 研修の修了認定は、次のとおりとする。

(1) 出欠の確認方法

授業開始前に、講師用出席簿により、出欠確認を行う。

(2)成績の評価方法

- (ア)添削課題は、3回に分けて添削指導を行う。各回、A・B・C・D・再の5段階で評価し、 D以上を合格とする。再の評価を受けた者は、合格点に達するまで、所定の課題の再提出を 繰り繰り返さなければならない。
- (100点満点中、A=90点以上、B=89~80点、C=79~70点、D=69~60点、再=59点以下)
- (イ)筆記試験は、全科目の修了時に行う。100点満点中60点以上を合格とする。理解度の高い順にA・B・C・D・再の5段階で評価し、D以上を合格とする。再の評価を受けた者は、再試験を行い、評価基準に達するまで行う。
- (A=90点以上、B=89~80点、C=79~70点、D=69~60点、再=59点以下)
- (ゥ)介護技術の習得度は、カリキュラム「こころとからだのしくみと生活支援技術」の総合生活支援技術演習において、当該科目(項目)担当講師が評価する。評価基準は、到達目標(別紙1カリキュラム)に定める評価ポイントにそって授業で行った程度の技術を修得しているかを、次の3段階で評価する。

段階	到達すべき水準
Α	演習で行った程度の技術を総合的に習得している
В	演習で行った程度の技術をほぼ習得している
С	技術の習得に至っていない

C段階の評価を受けた者は、到達目標に達するよう補講を行い、再評価する。

(3)修了認定の方法

- (ア)添削課題のすべてに合格しなければならない。
- (イ)講義・演習の全日程を修了した者(補講対象者にあっては、該当する補講を受講した者) は、修了時に、カリキュラム時間数とは別に行う筆記試験(60分間)に合格しなければな らない。
- (ゥ)筆記試験の評価は、(2)-(ィ)により行う。
- (エ)介護技術の習得度に関する評価は、(2)-(ウ)により行う。
- (オ)修了認定は、介護技術の習得度に関する講師の評価と筆記試験を行った上、修了認定会議 において基準に達したと認められた者に対して行う。

(追試験について)

第9条 追試験については、以下の通りとする。

- (1) やむを得ない事由により筆記試験を受験できない場合は、試験開始までに、その旨を 担当者へ届出または連絡しなければならない。
- (2) 追試験を受けようとする者は、学生受付窓口において追試験申込用紙に必要事項を記載し 追試験料400円を納入すると共に申込みを行い、追試験受験票を発行してもらわなければならな い。

(再試験について)

第10条 再試験については、以下の通りとする。

(1) 筆記試験(第8条)において再の評価を受けた場合は、再試験を受けることが出来る。

(2) 再試験の受験を希望する者は、再の評価を受けた後、所定の期間内に学生受付窓口において、再試験申込書に必要事項を記載し、再試験400円を納入するとともに、申込みを行い、 再試験受験票を発行しなければならない。

(補講の取扱い)

- 第11条 補講については、以下の通りとする。
- (1) 受講生がやむを得ず欠席等(遅刻・早退含む)した場合は、補講を行う。
- (2) 第8条(ゥ)において、C段階の評価を受けた者は、到達目標に達するまで、補講を行う。
- (3) 補講実施については、修業年限内で、研修日程と別に補講日を設け、該当科目(項目)の 補講を行う。
- (4) 補講を受講しようとする者は、学生受付窓口において補講申込み用紙に必要事項を記載し、 1時間につき補講料3,000円を納入すると共に申込みを行い、補講受講票を発行してもらわなければならない。但し、補講申込み上限時数は10時間未満とする。
- (5) 別の日に同じ科目・項目の授業があれば、その授業をうけて振替とする場合もある。
- (6) 振替授業を受講しようとする者は、学生受付窓口において振替授業申込用紙に必要事項を 記載し、1項目につき振替授業料3,000円を納入するとともに申し込みを行い、振替受講票 を発行してもらわなければならない。

(修了証明書の交付)

第10条 第8条により修了を認定された者は、当学園において、別紙に定める修了証明書及び修 了証明書 (携帯用) を交付する。ただし、受講料が納入されていない場合には、納入確認後に交 付する。

(退学規定)

- 第11条 退学規定は、次のとおりとする。
 - (1) 受講生が退学しようとするときは、所定の退学届を提出すること。
 - (2) 受講生が学園の定める諸規定を守らず、また次の行為のあったときは退学を命ずる。
 - (ア)素行不良で改善の見込みがないと認められるとき
 - (ィ)学力劣等で修了の見込みがないと認められるとき
 - (ゥ)正当な理由がなくして出席が常でない者
 - (エ)研修の秩序を乱している者
 - (オ)受講料が納入されない場合

(講師)

第12条 研修を担当する講師は、添付3号様式のとおりとする。

(修了者の管理)

- 第13条 研修終了後の管理は、次のとおり行う。
 - (1) 修了者は修了者台帳に記載し、修了名簿は永久保存するとともに、北海道が指定した様式に 基づき、知事に報告する。
 - (2) 修了証明書の紛失及び氏名変更等があった場合、修了者からの申し出により、事務窓口にて 再交付を行う。再交付手数料として、各一通500円(税込)を徴収する。郵送を希望する場合 の郵便料金は修了者の負担とする。また、本人確認ができる書類の提出を義務付ける。確認 書類は、戸籍謄本、戸籍抄本、住民票、運転免許証、学生証等公的証明書により行う。

(その他)

第14条 受講に関するその他の留意事項は次のとおりとする。

(1) 学則の説明

開講オリエンテーション時に学則の説明を行う。なお、開講オリエンテーションに参加できない場合は、個別に説明する場合もある。また、事務窓口に閲覧用学則を設置する。

(2)個人情報の取り扱い

受講により知り得た受講者の個人情報を、みだりに他人に知らせる、又は不当な目的に使用しない。

(3) 修業年限の延長

受講生が、病気や事故または災害等やむを得ない事情により所定の修業年限内に研修修了が 困難と認められた場合は、1年6か月までの範囲内で延長することができる。ただし、受講 生からの所定の申請があった場合に限る。

(施行細則)

第15条 この学則に必要な細則並びにこの学則に定めのない事項で必要があると認められるときは、当学園がこれを定める。

(附則)

この学則は、平成28年8月1日より施行する。

(附則)

この学則は、令和5年1月1日より施行する。

修了証明書:A4サイズ

第 号

修了証明書

氏 名

年 月 日生

介護保険法施行令(平成十年政令第四百十二号)第三条第一項 第一号口に掲げる研修の課程(介護職員初任者研修課程)を修了し たことを証明する。

年 月 日

学校法人経専学園 理事長 山本 清 印

修了証明書 (携帯): 名刺サイズ

第 号

修了証明書

氏 名

年 月 日生

介護保険法施行令(平成十年政令第四百十二号)第 三条第一項第一号ロに掲げる研修の課程(介護職員初任者 研修課程)を修了したことを証明する。

年 月 日

学校法人経専学園 理事長 山本 清 印

カリキュラム(通信)

科目	項目	添削 指導	面接 指導	科目 時間
職務の理解	多様なサービスの理解		3	6
	介護職の仕事内容や働く現場の理解		3	6
介護における 尊厳の保持・	人権と尊厳を支える介護		1. 5	0
自立支援	自立に向けた介護	7. 5		0
介護の基本	介護職の役割、専門性と多職種との連携	1		6
	介護職の職業倫理	1		Ü
	介護における安全の確保とリスクマネジメント	1		
	介護職の安全		3	
介護・福祉サ ービスの理解	介護保険制度		1. 5	0
と医療との連携	医療との連携とリハビリテーション	4		3
	障害者総合支援制度およびその他制度	3. 5		
介護における	介護におけるコミュニケーション		3	6
ション技術	介護におけるチームのコミュニケーション	3		O
老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常		3	6
老化の理解	高齢者と健康	3		0
認知症の理解	認知症を取り巻く状況	1		
	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1		6
	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		3	
	家族への支援	1		

障害の理解	陪宝のま		0.5		
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	0.0		3
		医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、か を援等の基礎的知識	1		
	家族の心	び理、かかわり支援の理解		1. 5	
こころとから	①基本	介護の基本的な考え方		1	
だのしくみと 生活支援技術	知識の 学習	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1	3	
		介護に関するからだのしくみの基礎的理解		4	
	②生活 支援技	生活と家事		6	
	術の講	快適な居住環境整備と介護	4		
	義・演習	整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	
		移動・移乗に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護	1	7	75
		食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	
		入浴、清潔保持に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護		6	
		排泄に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	
こころとから		睡眠に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護		6	
だのしくみと 生活支援技術		死にゆく人に関連したこころとからだのし くみと終末期介護	6		
	③生活	介護過程の基礎的理解		6	
	支援技 術演習	総合生活支援技術演習		6	
振り返り	振り返り)		3	4
	就業への)備えと研修修了後における継続的な研修		1	4
評価試験	筆記試縣	美		1	1
		合 計	40. 5	90. 5	131

- ・各科目内で、講義と演習を一体的に行う。演習の実施方法は、実技、グループ討議、ロールプレイング、ケーススタディ等により行う。
- ・研修の実施順序については、「職務の理解」を最初に行い、最後に「振り返り」を行って から評価試験(筆記試験)を実施する。
- ・「こころとからだのしくみと生活支援技術」は、基礎的学習後に生活支援技術等の学習を 行うものとし、①基本知識の学習、②生活支援技術の講義・演習、③生活支援技術演習の 順に展開する。

- 1. 職務の理解(6時間)
 - (1) 到達目標・評価の基準
 - ね|研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」
 - 等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行う ら
 - のか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

(2) 内容

- 1. 多様なサービスの理解(講義)
- (1) 介護保険サービス (居宅、施設)、介護保険外サービス
 - 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 (演習)
- (1)介護保険サービスを提供する現場の実際 容
 - (2) 介護サービスの提供に至るまでの流れ
- 2. 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間)
 - (1) 到達目標・評価の基準
 - |介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、
 - 介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはい ら
 - い けない行動例を理解している。

- ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援 の考え方を取り入れて概説できる。
- ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護 についての基本的なポイントを列挙できる。

(2) 内容

内

容

- 1. 人権と尊厳を支える介護(講義・演習)
 - (1)人権と尊厳の保持
 - (2) ICF
- (3) QOL
- - (4) ノーマライゼーション
- (5) 虐待防止・身体拘束禁止
- (6)個人の権利を守る制度の概要
- 2. 自立に向けた介護(講義)
- (1) 自立支援
- (2)介護予防

3. 介護の基本(6時間)

(1) 到達目標・評価の基準

・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対 ね 応策のうち重要なものを理解している。 ら ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援 い を捉える事ができる。 修 ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違 了 い、介護の専門性について列挙できる。 時 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性 の について列挙できる。 評 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点につ 価 いて、ポイントを列挙できる。 ポ ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 イ ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、 ン ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。 1

(2) 内容

容

- 1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携(講義)
- (1)介護環境の特徴の理解
- (2)介護の専門性
- (3)介護に関わる職種
- 2. 介護職の職業倫理(講義)
- (1)専門職の倫理の意義
- 内 (2)介護福祉士の倫理
 - 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント(講義)
 - (1)介護における安全の確保
 - (2)事故予防、安全対策
 - (3) 感染対策
 - 4. 介護職の安全 (講義・演習)
 - (1)介護職の心身の健康管理
 - (2) 感染予防

- 4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9時間)
 - (1) 到達目標・評価の基準

ね 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、 b サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 い ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役 修 割について列挙できる。 了 ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大 時 枠について列挙できる。 の 例:税が財源の半分であること、利用者負担割合 評 ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流 価 れについて列挙できる。 ポ ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービ 1 ス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ン ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙 **|**

(2) 内容

できる。

- 1. 介護保険制度 (講義・演習)
- (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向
- (2) 仕組みの基礎的理解
- (3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割
- 2. 医療との連携とリハビリテーション (講義)

内

容

- (1) 医行為と介護
- (2)訪問看護
- (3)施設における看護と介護の役割・連携
- (4) リハビリテーションの理念
- 3. 障害者総合支援制度およびその他制度 (講義)
- (1) 障害者福祉制度の理念
- (3) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解

- 5. 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)
 - (1) 到達目標・評価の基準
 - ね 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識 してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者と い して最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。

 - - ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
 - ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

(2) 内容

- 1. 介護におけるコミュニケーション (講義・演習)
- (1) コミュニケーションの意義、目的、役割
- (2) コミュニケーションの技法、
- 内 (3) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際
 - (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
- 容 2. 介護におけるチームのコミュニケーション (講義)
 - (1) 記録における情報の共有化
 - (2)報告・連絡・相談
 - (3) コミュニケーションを促す環境

6. 老化の理解(6時間)

(1) 到達目標・評価の基準

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性 に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

了 評時 価の ポ ハイント

・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的 能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

例:退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能 の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等

・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者 の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

例:脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等 を生じる等

(2) 内容

内

容

1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常(講義・演習)

(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴

(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響

2. 高齢者と健康(講義)

(1) 高齢者の疾病と日常生活上の留意点

(2) 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点

7. 認知症の理解(6時間)

(1) 到達目標・評価の基準

- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのと り方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴につ いても列挙できる。
- ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。

例:生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの 確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。

- ・認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて 理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。
- ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

(2) 内容

内

容

修

了

時

の

評

価

ポ

イ

ン

۲

- 1. 認知症を取り巻く状況(講義)
- (1)認知症ケアの理念
- (2)認知症ケアの視点
- 2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (講義)
- (1)認知症の概念
- (2) 認知症の原因疾患とその病態
- (3)原因疾患別ケアのポイント
- (4)健康管理

3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活(講義・演習)

- (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴
- (2) 認知症の利用者への対応
- 4. 家族への支援(講義)
- (1) 家族へのレスパイトケア
- (2) 家族へのエンパワメント

8. 障害の理解(3時間)

(1) 到達目標、評価の基準

ねらい	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
修了時の	・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

(2) 内容

内

- 1. 障害の基礎的理解(講義)
- (1) 障害の概念とICF
- (2) 障害者福祉の基本理念
- 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (講義)
- (1)身体障害
- 容 (2)知的障害
 - (3)精神障害
 - 3. 家族の心理、かかわり支援の理解(講義・演習)
 - (1) 障害の理解と障害の受容支援
 - (2) 介護負担の軽減

1

9. こころとからだのしくみと生活支援技術(75時間)

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい

- ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービス の提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施 設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、 指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしく みが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴 に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するから だのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するから だのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護 職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

(2) 内容

- < I. 基本知識の学習・・・10時間>
- 1. 介護の基本的な考え方(講義・演習)
- (1) 理論に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除)
- (2) 法的根拠に基づく介護
- 2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解(講義・演習)
- (1) 学習と記憶の基礎知識
- (2) 感情と意欲の基礎知識
- (3) 自己概念と生きがい
- (4) 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
- 3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解(講義・演習)
- 内 | (1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識
 - (2) 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用
- 容 (3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識
 - (4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識
 - <Ⅱ. 生活支援技術の学習・・・53時間>
 - 4. 生活と家事 (講義・演習)
 - (1) 家事と生活の理解、
 - (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援
 - 5. 快適な居住環境整備と介護(講義)
 - (1) 快適な居住環境に関する基礎知識
 - (2) 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用
 - 6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 (講義・演習)
 - (1) 整容に関する基礎知識
 - (2) 整容の支援技術
 - 7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 (講義・演習)
 - (1)移動・移乗に関する基礎知識
 - (2) 移動・移乗に関する用具とその活用方法
 - (3) 利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援
 - (4)移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法
 - (5)移動と社会参加の留意点

- 8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(講義・演習)
- (1) 食事に関する基礎知識
- (2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法
- (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法
- (4) 食事と社会参加の留意点と支援
- 9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(講義演習)
- (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識
- (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法
- (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法
- 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(講義・演習)
 - (1) 排泄に関する基礎知識
 - (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法
- (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法

内

容

- 11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護(講義・演習)
- (1)睡眠に関する基礎知識
 - (2) 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法
 - (3) 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法
 - 12. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護(講義)
 - (1)終末期に関する基礎知識
 - (2) 生から死への課程
 - (3)「死」に向き合うこころの理解
 - (4) 苦痛の少ない死への支援
 - <Ⅲ.生活支援技術演習・・・12時間>
 - 13. 介護過程の基礎的理解 (講義・演習)
 - (1)介護過程の目的・意義・展開
 - (2)介護過程とチームアプローチ
 - 14. 総合生活支援技術演習 (演習)

(事例による展開)

移動や食事など生活の各場面における介護について、ある状態像の利用者を想定し、 一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた 支援の提供を考える。

2つの事例を提示し、 I C F の考え方にそって支援の方法・課題を検討する。

- 10. 振り返り(4時間)
 - (1) 到達目標・評価の基準

ね 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業 後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

(2) 内容

内

容

- 1. 振り返り(演習)
- (1) 研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと
- (2) エビデンスベースの介護についての要点
- 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修(講義)
- (1)継続的に学ぶべきこと
- (2) OFF-JT、OJT、プリセプター制度の紹介

11. 評価試験(筆記試験)(1時間)

カリキュラム全体を通してどの程度理解したか、到達水準を4段階で評価する。 A:具体的に説明できるレベル B:だいたいのところを説明できるレベル C:やや説明 できるレベル D:知っているレベル

添削指導及び面接指導の指導方法書

1 添削指導

(1)添削指導の進め方

- ア 課題は、一括して受講生に配付する(テキスト配付と同時に課題を配付する)。
- イ 全科目を3回に分け、1回あたり1週間以内の提出期限を設定する。
- ウ 提出された課題は、添削者が1週間程度で添削し、返却する。 100点満点中、A=90点以上、B=89~80点、C=79~70点、D=69~60点、再=59点以 下の5段階とし、D以上を合格点とする。

再の評価を受けた者は、合格点に達するまで、所定の課題の再提出を繰り返す。

エ 受講生からの質問は、事務窓口で受け付け、必要に応じて担当講師に照会する。

(2) 課題

3回分の課題と模範解答 別紙添付

自社にて作成

2 面接指導

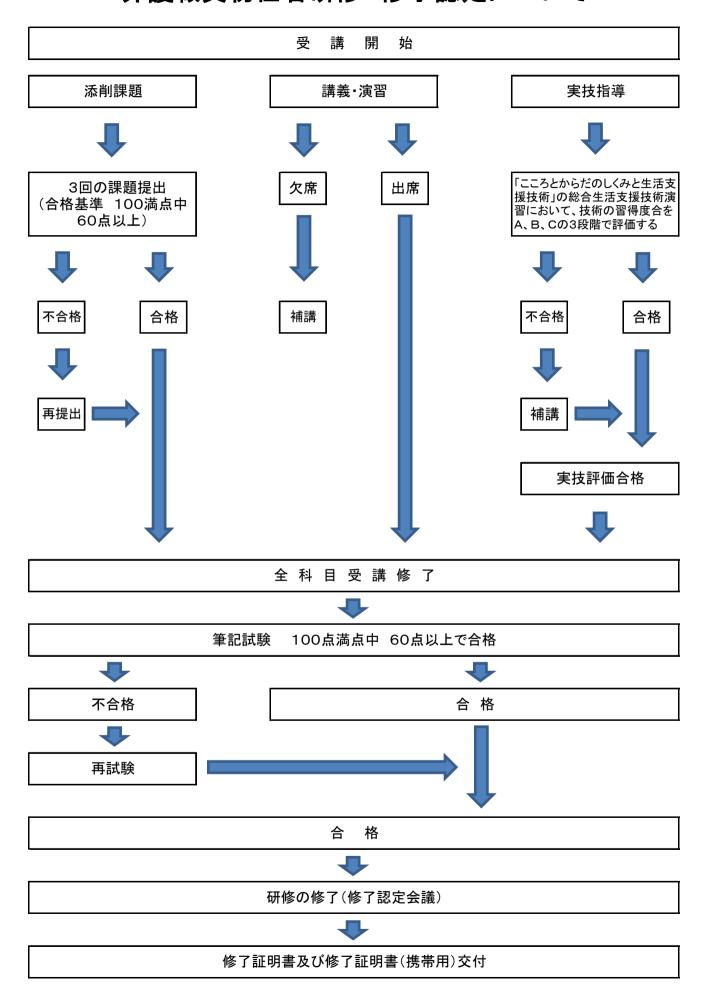
面接指導の講義・演習

科目(項目)名	内容	研修 時間
職務の理解	多様なサービスの理解	3
	介護職の仕事内容や働く現場の理解	3
介護における尊厳の保持・自	(1)人権と尊厳の保持(2)ICF(3)QOL	
立支援(人権と尊厳を支える	(4)ノーマライゼーション(5)虐待防止・身体拘束	1.5
介護)	禁止(6)個人の権利を守る制度の概要	
介護の基本	(1)介護職の心身の健康管理	
(介護職の安全)	(2)感染予防	3
介護・福祉サービスの理解と	(1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向(2)仕	
医療との連携	組みの基礎的理解(3)制度を支える財源、組織・団体	1.5
(介護保険制度)	の機能と役割	
介護におけるコミュニケー	(1) コミュニケーションの意義、目的、役割	
ション技術(介護におけるコ	(2)コミュニケーションの技法(3) 利用者、家	
ミュニケーション)	族とのコミュニケーションの実際(4)利用者の状	3
	況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際	
老化の理解(老化に伴うここ	(1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	
ろとからだの変化と日常)	(2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響	3
認知症の理解(認知症に伴う	 (1)認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴	
こころとからだの変化と日	(2)認知症の利用者への対応	3
常生活)	(C) BO VEYE (V. 4.1) 11. C . (V. 1) NO.	

(2) 介護負担の軽減			(1) 陪宝の理解を陪宝の妥応支援	
			(1)障害の理解と障害の受容支援	1. 5
1	かわ	り支援の理解)		
大方) 接、我流介護の排除)(2) 法的根拠に基づく介護 (介護に関するこころ (1) 学習と記憶の基礎知識(2) 感情と意欲の基礎知識(3) 自己概念と生きがい(4) 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 (介護に関するからだのしくみの基礎的理解 (2) 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用(3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識(4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識(4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識(4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識(2) 家事援助に関する基礎知識(2) 家事援助に関する基礎知識(2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (1) 移動・移乗に関する基礎知識(2) 移動・移乗に関する基礎知識(2) 整容の支援技術 (1) 移動・移乗に関する基礎知識(2) 移動・移乗に関する基礎知識(2) を容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (1) 移動・移乗に関する基礎知識(2) 移動・移乗に関する基礎知識(2) 移動・移乗を阻関する基礎知識(2) 移動・移乗を阻関する関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 食事に関する基礎知識(2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法(3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法(4) 食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法(3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法(4) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法(5) 療味が進度で発達が関連する異因の理解と支援方法(4) 非泄環境の整備と排泄用具の活用方法(6) 療味が進度で発達が関連する要因の理解と支援方法(4) 変味な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	٦	(介護の基本的な考え 		1
は のしくみの基礎的理解	٦	方)		
(介護に関するからだ (1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 (2) 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用(3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 (4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 (1) 家事と生活の理解、(2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 (1) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (移動・移乗に関する基礎知識 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) を容し関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する用具とその活用方法(3) 利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援(4) 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 (5) 移動と社会参加 (食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 食事に関連した基礎知識 (2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事と社会参加の留意点と支援 (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 健事と社会参加の理解と支援方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 健滞に関連したここ (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	ろ	(介護に関するこころ	(1)学習と記憶の基礎知識(2)感情と意欲の基礎知	
(介護に関するからだ (1) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 (2) 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用(3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 (4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 (1) 家事と生活の理解、(2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 (2) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (7) を容に関する基礎知識 (2) を容の支援技術 (3) 利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 (1) 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 推泄に関連したここ (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (4) を取らに向けた介護 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	٢	のしくみの基礎的理解	識(3)自己概念と生きがい(4)老化や障害を受け入	3
だ のしくみの基礎的理解 (2)骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用(3)中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 (4)自律神経と内部器官に関する基礎知識 (2)家事援助に関する基礎知識 (2)家事援助に関する基礎知識と生活支援 (整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (7)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)を容の支援技術 (2)を容の支援技術 (2)を容の支援技術 (3)利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 (4)移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 (3)楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (1)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4)推定関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4)推定関連を重要を限力を阻害する要因の理解と支援方法 (4)推定関連を配言する要因の理解と支援方法 (5)非泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (5)変快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	か)	れる適応行動とその阻害要因	
スの活用(3) 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 (4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 (生活と家事) (1) 家事と生活の理解、 (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 (整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (移動・移乗に関連し (1) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する再具とその活用方法(3) 利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援(4) 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法(5) 移動と社会参加 (食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事と社会参加の留意点と支援 (1) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 排泄に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (5) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	b	(介護に関するからだ	(1)人体の各部の名称と動きに関する基礎知識	
スの活用(3) 中枢神経糸と体性神経に関する基礎知識 (4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 (生活と家事) (1) 家事と生活の理解、 (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 (整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 食事に関する基礎知識 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (1) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗に関する基礎知識 (2) 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 (5) 移動と社会参加 (食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 食事に関連した基礎知識 (2) 食事に関連した基礎知識 (2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	だ	のしくみの基礎的理解	(2)骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニク	
(生活と家事) (1) 家事と生活の理解、 (2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 (整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (7) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) 整容の支援技術 (2) を表記を対したこころとからだのして、 (3) 利用者、介助者にとって、 (4) を書きる要因の理解と支援方法(5) 移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法(5) 移動と社会参加 (食事に関連したここのとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 食事に関連した基礎知識 (2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 食事と社会参加の留意点と支援 (1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 推泄に関連したここのとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 排泄に関する基礎知識 (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 変換な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	の)	スの活用(3)中枢神経系と体性神経に関する基礎知識	4
と (整容に関連したここととからだのしくみと自立に向けた介護) (1)整容に関する基礎知識 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (2)を動・移乗に関する基礎知識 (2)を動・移乗に関する上では、 (4)を自立に向けた介護) (1)を事に関する基礎知識 (2)を動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 (5)を動と社会参加 (食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)食事に関する基礎知識 (2)食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3)楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (1)入浴、清潔保持に関連したことを表して、(1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4)を事と社会参加の留意点と支援 (1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (3)変快な排泄の整備と排泄用具の活用方法 (5)を限さいるとは、(3)変快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 (4)を非泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (5)を対して、(1)が対しで、(1)が対して、(1)が対して、(1)が対しで、(1)が対して、(1)が対しで、(1)が対しで、(1)が対しで、(1)が対しで、(1)が対しで、(1)が対しで、(1)が対して、	L		(4)自律神経と内部器官に関する基礎知識	
と (整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)整容に関する基礎知識 (2)整容の支援技術 (2)整容の支援技術 (3)利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援(4)移動・移乗を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)発育と対象を関連したことのような、(2)食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法(3)楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法(4)食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (排泄に関連したここのようなとのようなとのようなとのようなとのようなとのようなとのようなとのようなと	<	(生活と家事)	(1) 家事と生活の理解、	
生	み		(2) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援	6
生 うとからだのしくみと自立に向けた介護)	ع	(整容に関連したここ		
自立に向けた介護	生	ろとからだのしくみと		6
大の元のでは、	活	 自立に向けた介護)	(2)整容の支援技術	
接 たこころとからだのし	-		(1)移動・移乗に関する基礎知識(2)移動・移乗に	
大		たこころとからだのし	関する用具とその活用方法(3)利用者、介助者にとっ	
(食事に関連したここ (1)食事に関する基礎知識 (2)食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3)楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (1)入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4)律罪に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法	•••			7
(食事に関連したここ (1)食事に関する基礎知識 るとからだのしくみと (2)食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3)楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (1)排泄に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 6	•••			
ろとからだのしくみと自立に向けた介護) (2)食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 (3)楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 (4)食事と社会参加の留意点と支援 6 (入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 6 (排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)排泄に関する基礎知識 (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 6				
自立に向けた介護)				
(4)食事と社会参加の留意点と支援 (入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (排泄に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 ろとからだのしくみと (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 自立に向けた介護) (4)食事と社会参加の留意点と支援 (1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法				6
(入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1)入浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4)排泄に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 ろとからだのしくみと (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 6 自立に向けた介護) (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法		日立に同いたり設力		
連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護) (1) 人浴、清潔保持に関連した基礎知識 (2) 入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (4) 排泄に関連したここ (1) 排泄に関する基礎知識 るとからだのしくみと (2) 排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 自立に向けた介護) (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法		(1) 淡 连脚炉柱厂即	(4)及事と性気参加の自息点と文法	
のしくみと自立に向けた介護) (2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法 (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 6 (排泄に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 ろとからだのしくみと 自立に向けた介護) (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 6			(1) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識	
た介護) (3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 (排泄に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 ろとからだのしくみと (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 6 自立に向けた介護) (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法			(2)入浴、清潔保持に関連する用具の活用方法	6
(排泄に関連したここ (1)排泄に関する基礎知識 ろとからだのしくみと (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 6 自立に向けた介護) (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法			(3)楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法	
ろとからだのしくみと (2)排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 6 自立に向けた介護) (3)爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法			/ 4 \ \ \	
自立に向けた介護) (3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法				
				6
(睡眠に関連したここ (1)睡眠に関する基礎知識				
				6
自立に向けた介護) (3)快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法				
(介護過程の基礎的理 (1)介護過程の目的・意義・展開			2 1 2 1 2	6
解) (2)介護過程とチームアプローチ		解)	(2)介護過程とチームアプローチ	
(総合生活支援技術演 2つの事例を提示し、ICFの考え方にそって支援の方		(総合生活支援技術演	 2つの裏例を提示 ICFの老ぇ方にそって支煙の方	
₹ ₹₹		習)		6
/A 环径と1入口17 つ			144 IM (巻 C 1大口) 7 で	

振り	振り返り	振り返り	3
返り	派り返り	就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1
評価	第司录形		
試験	筆記試験		1

介護職員初任者研修 修了認定について



実技演習備品一覧

実技内容	備品	1ベッドあたりの個数
ベッドメイク	ベッド、手すり付き	
	ベッド用マット	
	枕(介護用羽枕)	
	平シーツ(スマイル フラットシーツ白)	
	枕カバー	
	毛布またはタオルケット	
	バスタオル	
	衣類かご	
	ベッドブラシ	
10 11 10 	体位交換枕 表 立	
移動移乗	車いす	
	マニノディングン・レンギード	9 to t h \(\tau \)
	スライディングシートかボード	見本のため全体に1
会車 口吹ケマ	4点杖またはウォーカーケイン	見本のため全体に1
食事・口腔ケア	食器セット(茶碗、皿、お椀、コップ、箸、スプーン、フォーク、トレ―) 自助具(障害者用スプーンや箸、フォーク)	見本のため全体に1
	自助兵(障害有用スノーンで者、フォーク) 吸いのみ	見本のだめ主体に
	吸いのみ おしぼりとおしぼり受け	
	割り箸とストロー、紙コップ	受講生数
	刮り者とストロー、私コック トロミ剤(商品名「トロメイク」「トロミーナ」「トロメリン」等)	
	ハサミ(トロミ剤の袋を開けるため)	文
	バサミ(トロミ剤の袋を開けるため) ガーグルベースン(受水器)	
	カーケルペースン(受水器) 口腔ブラシ、舌ブラシ	
	ロ <u>に</u> ノフン、ロフフン スポンジブラシ	
	スホンシノラシ ディスポーザー手袋	
整容•更衣着脱	ー ディスパーサーチ袋 ねまき用浴衣	文明主教
空台 史公相版	14年2月1日 14年2月 14年2月	見本のため全体に1
	かぶりの服(トレーナー)	見本のため全体に1
	がぶらの版(ドレーケーケー) 爪切り	元本の元の主体に
	フェイスタオル	-
	ヘアブラシ	-
	手鏡	-
	丁	
排泄	<u> </u>	
1357년	バスタオル	-
	ハンドタオル	-
	トイレットペーパー	-
	防水シーツ	-
	紙おむつ各サイズ	見本のため全体に1
	布おむつとおむつカバーセット	見本のため全体に1
	紙おむつ(LかLL、交換練習用)	70771207 <u>1</u> 771121
	尿取りパット 女用	
	リハビリパンツ	
	ディスポーザー手袋	見本のため全体に1
ĺ		
1	ズボン(再衣養脱のパジャマズボン共有)	
	ズボン(更衣着脱のパジャマズボン共有) 里性田尿器	共有
	男性用尿器	
	男性用尿器 女性用尿器	
入浴•手浴•兄浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大)	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大)	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器女性用尿器差し込み便器【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】バスタオルビニール袋(ごみ袋の大)洗濯バサミ(大)輪ゴム綿棒耳栓用脱脂綿(綿球)	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 支性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 を性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル ドライヤー	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 支性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル ドライヤー バケツ(大) 15I	共有
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル ドライヤー バケツ(大) 15 【手浴・足浴用】	共有
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 支性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル ドライヤー バケツ(大) 15I 【手浴・足浴用】 手桶	共有
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル ドライヤー バケツ(大) 15I 【手浴・足浴用】 手桶 洗面器(小)	共有
入浴·手浴·足浴	男性用尿器	
入浴·手浴·足浴	男性用尿器 女性用尿器 差し込み便器 【ベッド上の洗髪デモンストレーション用】 バスタオル ビニール袋(ごみ袋の大) 洗濯バサミ(大) 輪ゴム 綿棒 耳栓用脱脂綿(綿球) シャンプーリンス ドライシャンプー フェイスタオル 顔に当てるガーゼハンカチかミニタオル ドライヤー バケツ(大) 151 【手浴・足浴用】 手桶 洗面器(小) 洗面器(大) 足浴用たらいとして使用 レジャーシートか防水マット	共有
入浴·手浴·足浴	男性用尿器	共有

学生個人が用意するものもあります。 着替えの衣類や手浴足浴の時のフェイスタオル、食事支援で使う簡単な食べ物類

講師 一覧

	Т				
講師調	пд	40小村口(花口)	資格名	専兼	備
書番号	八 名	氏名 担当科目(項目)		別	考
1	末岡 陽子	こころとからだのしくみと生活支援技術(⑥整容に関連	介護福祉	兼	添
		したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦	±		削
		移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に	介護教員		責
		向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしく	講習会		任
		みと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこ	修了		者
		ころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に			
		関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			面
		⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に			接
		向けた介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支			指
		援技術演習)			導
					者

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること。

講師調書番号	В	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
2	宮崎	博一	障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解 /ここ	介護福祉	兼	添
			ろとからだのしくみと生活支援技術(⑦移動・移乗に関	±		削
			連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	保育士		責
			⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向	児童発達		任
			けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだ	支援管理		者
			のしくみと自立に向けた介護	責任者		
						面
						接
						指
						導
						者
ı						
ı						

- 注 1
 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること。

講師調書番号	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
3	立成みゆき	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事	ホームへ	兼	面
		内容や働く現場の理解/介護における尊厳の保持・自立	ルパー2		接
		支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護	級・ガイ		指
)/介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との	ドヘルパ		導
		連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確	ー・介護		者
		保とリスクマネジメント ④介護職の安全) /介護・福	福祉士・		
		祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③	介護支援		
		障害者総合支援制度およびその他制度)/介護における	専門員・		
		コミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケー	実務者研		
		ション ②介護におけるチームのコミュニケーション)	修教員講		
		/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に	習修了・		
		伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支	社会福祉		
		援)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護	主事		
		の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの			
		基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と			
		介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自			
		立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとから			
		だのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこ			
		ころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に			
		関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護			
		⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと			
		終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支			
		援技術演習) ⑭総合生活支援演習 /振り返り(①振り			
		返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な			
		研修)			

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

講師調 書番号	E	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼 別	備考
4	吉江	幸子	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現	介護福祉	兼	面
			場の理解) /介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支え	士・保育		接
			る介護 ②自立に向けた介護) /介護の基本(①介護職の役割、専門性	士・実務		指
			と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保	者研修教		導
			とリスクマネジメント ④介護職の安全) /介護・福祉サービスの理	員講習修		者
			解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびそ	了		
			の他制度) /介護におけるコミュニケーション技術(①介護における			
			コミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)			
			/老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と日常)/認知症			
			の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの			
			変化と日常生活 ④家族への支援) /障害の理解(③家族の心理、かか			
			わり支援の理解)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護			
			の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ③			
			介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な			
			居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自			
			立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと			
			自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立			
			に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ			
			と自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自			
			立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に			
			向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末			
			期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り			
			返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研			
			修)			

- 上|注 1講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

講師調書番号	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
5	八木 一恵	介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支	看護師	兼	面
		える介護 /介護・福祉サービスの理解と医療との連携			接
		(①介護保険制度) /介護の基本(④介護職の安全) /			指
		老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と日常			導
) /認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 /こころ			者
		とからだのしくみと生活支援技術(③介護に関するから			
		だのしくみの基礎的理解)			

- 注 1
 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること。

講師調書番号	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
6	若﨑 一恵	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容	介護福祉	兼	面
		や働く現場の理解)/介護における尊厳の保持・自立支援(士・介護		接
		①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護)/介護の	教員講習		指
		基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職	会修了		導
		の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメン			者
		ト ④介護職の安全)/介護・福祉サービスの理解と医療と			
		の連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその			
		他制度)/介護におけるコミュニケーション技術(①介護に			
		おけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュ			
		ニケーション)/老化の理解(①老化に伴うこころとからだ			
		の変化と日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況			
		③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族へ			
		の支援) /障害の理解 (③家族の心理、かかわり支援の理解			
)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本			
		的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解			
		③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事			
		⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころと			
		からだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連し			
		たこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関			
		連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴			
		、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向け			
		た介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に			
		向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自			
		立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連したこころとからだの			
		しくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活			
		支援技術演習)			

注 1 講義及び演習を担当する者について記載すること。

² 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

講師調書番号	E	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
7	荒瀬	崇光	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現	ヘルパー	兼	面
			場の理解)/介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支	2級•介護		接
			える介護 ②自立に向けた介護)/介護の基本(①介護職の役割、専	福祉士・		指
			門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の	社会福祉		導
			確保とリスクマネジメント ④介護職の安全) /介護・福祉サービス	士・介護		者
			の理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およ	支援専門		
			びその他制度)/介護におけるコミュニケーション技術(①介護にお	員		
			けるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーショ			
			ン)/老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と日常)/認			
			知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとから			
			だの変化と日常生活 ④家族への支援)/障害の理解(③家族の心理			
			、かかわり支援の理解)/こころとからだのしくみと生活支援技術(
			①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理			
			解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤			
			快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしく			
			みと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのし			
			くみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみ			
			と自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだの			
			しくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしく			
			みと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと			
			自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみ			
			と終末期介護 ③介護過程の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習)			
			╱振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続			
			的な研修)			

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

講師調書番号	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼 別	備考
	長澤 哲幸	担当科目(項目) 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)/介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護)/介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)/こころとからだのしくみと生活援助技術(⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修)	資 社士介専住一一介専介士格 会・護門環デタ護門護名 祖主支員境ィー支員福祉任援・コネ・援・祉		

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

講師調書番号	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
9	木村 聖美	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②南族の理解(①多様なサービスの理解)/介護により、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では	介士報事護習・酬務教会補護求介講・員修	兼	面接指導者

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

			1		, I
講師調書番号	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼別	備考
10	平尾照子	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)/介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立性ともの一意で、事門にとの連携 ②介護職の投割、事門にといるが護職の事務の連携 ②介護職の職業には、事門には、事門には、事門には、事門には、事門には、事門には、事門には、事門	介士支員症門務員修護・援・ケ士研講了福介専認ア・修習社護門知専実教会	兼	面接指導者

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

講師調書番号 氏名 担当科目(項目) 資格名 専兼 備	_			ı		, ,
古田 浩 職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)/介護における尊厳の保持・自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介護)/介護の基本(①介護職の役割、専門性と他破全の確保とりスクマネジメント ④介護職の受会)/介護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)/介理におけるコミュニケーション技術るチームのコミニケーションと介護におけるチームのコミニケーションと介護におけるチームのコミニケーションと介護におけるエニケーションと介護におけるチームのコミニケーションと介護におけるチームのコラとからだの変化と日常)/障害の理解(①認知症を取り巻く状況(③認知症に伴うこころとからだの変化と日常)/障害の理解(③家族への支援)/障害の理解(③家族なの支援)/障害の理解(③家族なのしくみと生活支援技術(①介度の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ④介護に関するからだほのしくみの基礎の理解 ④介護に関するからだのしくみと自立に向けた介護 ⑥を容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を育護したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を育護したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を別議を開連したこころとからだのしくみとと自立に向けた介護 ①を別議を関連したこころとからだのしくみとと自立に向けた介護 ①を別にに関連したこころとからだのしくみとと自立に向けた介護 ①を別にのしくのよとを別事に関連したこころとからだのしくみとと自立に向けた介護 ①を別事に関連したこころとからだのしくみとと終末期で ②振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における		氏名	担当科目(項目)	資格名		
事内容や働く現場の理解)/介護における尊厳の保持・ 自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた 介護)/介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種 との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全 の確保とリスクマネジメント ④介護職はの分護における安全 の確保とリスクマネジメント ④介護におけるコミューケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション技術(①介護におけるコミューケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)/老化の理解(①ま化に伴うこころとからだの変化と日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④ 家族への支援)/障害の理解(③家族の心理、かかわり 支援の理解)/ころとからだのしくみと生活支援技術 (①介護の基本的な考え方 ②介護に関連るからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備 と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 ①を明連を開連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を書でしているとからだのしくみと自立に向けた介護 ③入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ②のに関連したこころとからがのしくみと自立に向けた介護 ③介護 ②介護 ③介護 3分の選種の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における	書番号				別	考
自立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた 介護) /介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種 保健福祉 との連携 ②介護職の職業 倫理 ③介護職の安全) /介護 ②介護職の職業 他理 ④介護職の安全) /介護 (①介護職の職業 他理 (④介護職の安全) /介護 (④介護職の安全) /介護 (④介護職の安全) /介護 (④介護限の大福祉サービスの理解と医療との連携(①介護におけるコミュニケーションとをの理解(0)を化に伴うこころとからだのカーション) / 老化の理解(0)を化に伴うこころとからだの変化と日常) /認知症の理解(0)認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援) /障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解) /こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころのしくみと自立に向けた介護 ⑥を容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑥入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑥外に向く入みと向が高したのしくみと自立に向けた介護 ⑥水に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑥水に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ③介護 (⑥介護 ⑥介護 (⑥介護 ⑥介護 (⑥介護 ⑥介) (⑥介) (⑥介) (⑥介) (⑥介) (⑥介) (⑥介) (⑥介)	1 1	吉田 浩		介護福祉	兼	面
との連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)/介護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)/介護におけるコニューケーション技術(①介護におけるチームのコミュニケーション)/老化の理解(①を化に伴うこころとからだの変化と日常)/認知症の理解(①家族の心理と日常)/こころとからだの変化と日常)/ご認知症を取り巻く状況(③認知症に伴うこころとからだの変化と日常)/ご認知症を取り巻く状況(③認知症に伴うこころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を言いらだのしくみと自立に向けた介護 ①を言いらだのしくみと自立に向けた介護 ①を言いらだのしくみと自立に向けた介護 ①を正に対してのとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を言いらにして、みと自立に向けた介護 ①を正に対して、よいらだのしくみと自立に向けた介護 ①を記したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を記したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を記したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ①を記したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ②死にはく人に関連したこころとからだのようなと終末期介護 ③介護 過程の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における				士・精神		接
の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)/介 護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度、3障害者総合支援制度およびその他制度)/介護におけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション大きにおけるコミュニケーションが表化の理解(①を化に伴うこころとからだの変化と日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況・3認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活を変接の理解)/では、3を使いでは、2分では、2分では、2分では、2分では、2分では、2分では、2分では、2分				保健福祉		指
護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)分介護におけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション)/老化の理解(①を化に伴うこころとからだの変化と日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常)/でいる変化との変化と日常)/では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個				士・社会		導
おけるコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームのコミュニケーション) /老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と日常) /認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④ 家族への支援) /障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解) /こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪をにゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬を加いている。 ② 就業への備えと研修修了後における			護・福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制			_
ション)/老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④ 家族への支援)/障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
変化と日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④ 家族への支援) / 障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解) / こころとからだのしくみと生活支援技術 (①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪をにゆく人に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族への支援)/障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
家族への支援)/障害の理解(③家族の心理、かかわり支援の理解)/こころとからだのしくみと生活支援技術(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪をにゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
支援の理解)/こころとからだのしくみと生活支援技術 (①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころの しくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみ の基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備 と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとか らだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、 清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に 向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとから らだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関 連したこころとからだのしくみと終末期介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返 り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
(①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における			1			
しくみの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨升泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪那に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返り ①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
の基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
と介護 ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧入浴、 清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習)/振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
自立に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
らだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における			_ · · · · · · -			
こころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪悪に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
向けた介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしく みと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑰死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 連したこころとからだのしくみと終末期介護 ⑬介護 過程の基礎的理解 ⑭総合生活支援技術演習) /振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
みと自立に向けた介護 ①睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 ②死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ③介護過程の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
らだのしくみと自立に向けた介護 ①死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 ③介護 過程の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習)/振り返り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
連したこころとからだのしくみと終末期介護 ③介護 過程の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習)/振り返 り(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
過程の基礎的理解 ④総合生活支援技術演習) /振り返り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
り (①振り返り ②就業への備えと研修修了後における						
			9 (①振り返り ②机果への哺んと研修修り後における 継続的な研修)			

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること

			Г	1	
講師調	氏名	担当科目(項目)	資格名	専兼	備
書番号				別	考
1 2	吉田 道子	職務の理解(①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解)/介護における尊厳の保持・自	介護福祉	兼	面
		立支援(①人権と尊厳を支える介護 ②自立に向けた介	士・キャ		接
		護)/介護の基本(①介護職の役割、専門性と他職種と	ラバン・		指
		の連携 ②介護職の職業倫理 ③介護における安全の 確保とリスクマネジメント ④介護職の安全)/介護・	メイト養		導
		福祉サービスの理解と医療との連携(①介護保険制度 ③障害者総合支援制度およびその他制度)/介護におけ	成研修修		者
		るコミュニケーション技術(①介護におけるコミュニケ	了・認知		
		ーション ②介護におけるチームのコミュニケーション)老化の理解(①老化に伴うこころとからだの変化と	症専門士		
		日常)/認知症の理解(①認知症を取り巻く状況 ③認	・実務者		
		知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ④家族 への支援)/障害の理解(③家族の心理、かかわり支援	研修教員		
		の理解) /こころとからだのしくみと生活支援技術(①	研修		
		介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしく みの基礎的理解 ③介護に関するからだのしくみの基			
		一礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介			
		護・⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立			
		に向けた介護 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだ のしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したここ			
		ろとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔			
		保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向け た介護 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと			
		のしくみと自立に向けた介護 ⑫死にゆく人に関連し			
		たこころとからだのしくみと終末期介護 30介護過程 の基礎的理解 40総合生活支援技術演習) /振り返り			
		(①振り返り ②就業への備えと研修修了後における			
		継続的な研修)			

- 注1 講義及び演習を担当する者について記載すること。
 - 2 講義を通信で行う場合の添削責任者及び面接指導者についても記載し、「備考」にその旨記載すること